

史
料
編

加藤家文書（秩父市立図書館所蔵）

史料一

〔天和二年四月 小森村百姓山稼ぎにつき一札〕（控）

差上申一札之事

一、今度御代官所御一円ニ被仰付候ニ付而只今迄山々々出シ候笹子・札敷板之外一切先規之通出シ申間敷候、第一御用木并御林山・御立山・御鷹山大切ニ相守可申旨奉得其意候

一、角物・平物・柱・諸材木等之儀一切出シ申間敷候、勿論筏出し仕間敷

一、笹子・札敷板子ハ前々々馬付ニ而^{一統損}■たへ笹子・札敷ニ而御座候共

筏出し一切仕間敷候、百姓四壁之雜木或ハ百姓持分之山ニて竹・雜木伐候者

急度御下知可得候、且又其時々ニ而家普請仕方之木竹等きり申候ハ、急度江

戸迄御断申上、其上ニて切夫可申候、小百姓水吞百姓家作仕節江戸迄罷越候

義不罷成者ハ割元中へ相断其上ニて竹・雜木切可申事

天和貳年戌四月

武州秩父郡小鹿野組

小森村名主 忠右衛門

同村長百姓 次郎右衛門

同村 与頭 久左衛門

御代官様

史料二

〔貞享三年十月 小森村百姓焼畑・炭焼きほかにつき請書〕（控）

指上申一札之事

一、武州秩父領小森村百姓山之内ニ而焼畑仕候ハ、芝山之義ハ各別、立木有之山一切焼申間敷候旨被仰渡奉畏候事

一、堅炭焼出し商売仕候哉と御尋ニ御座候、先規より堅炭焼不申ニ枯木ニ而

鍛治炭ヲ焼商売仕候由申上候へハ自今以後之儀も弥先規之通相応心得生木ニ

て堅炭一切焼申間敷旨被仰渡奉畏候事

一、於居林野山御用木ニも成木一切伐採申間敷候、其外材木ニなり候木

■^{破損}■之時分不叶入用ニて伐採候ニ者木数寸間等目錄以致御注進御意次第

ニ仕申候様ニと被仰渡奉畏候御事、

右之通堅被仰渡奉畏候、若違背犯之族御座候由被及聞召候ハ、御詮義之上当

人之義ハ不及申上名主年寄組頭迄急度曲事ニ可被仰付候、為後日名主年寄組

頭連判、仍如件

貞享三年寅十月

秩父郡小森村

名主 忠右衛門

年寄百姓 八右衛門

（史料一）「御用留綴」（天和）貞享）より

高野家文書（秩父市立図書館所蔵、高野順一氏旧蔵）

史料三

〔元禄十年十月 松本惣左衛門酒造高改の覚〕（控）

覚

一、酒造本石七拾九石壹斗

右者延宝七年未御改之節書上候

此改

元禄十年丑十月四日

惣左衛門

史料四

〔元禄十二年十月 寅年酒造高の覚〕(控)

寅年酒造高半分造高之覚

一、式石五升	是ハ岩田村勘右衛門可造分	関山村	庄太郎
一、五拾九石三斗	是ハ岩田村勘右衛門可造分	岩田村	勘右衛門
一、七石壹斗五升		木持	権左衛門
一、壹石九斗壹升		皆野村	半兵衛
一、三拾五石五斗	是ハ岩田村勘右衛門可造分	大宮郷	長太夫
一、拾四石壹斗		同所	四郎左衛門
一、八石六斗五升		同所	縫殿助
一、式拾壹石		同所	孫右衛門
一、拾式石六斗		大宮郷	孫左衛門
一、式拾九石六斗五升		同所	市郎兵衛
一、六石		同所	彦左衛門
一、拾五石八斗五升		同所	惣左衛門
一、七石八斗五升		同所	善右衛門
一、四石七斗五升		同所	助右衛門
一、式石九斗五升		同所	平七
一、壹石六斗式升五合		同所	新左衛門
一、拾五石		下影森	又兵衛
一、七石五斗五升		上田野村	太郎右衛門
一、九斗五升		三沢村	左平次
一、八石七斗	是ハ縫殿助・孫右衛門造之	黒谷村	孫兵衛
一、拾壹石四斗七升		同所	源右衛門

一、三石

大宮郷 三太夫

右之通十月廿五日之日付ニ而同廿七日ニ相屈酒屋中へ相廻し申候

史料五

〔元禄十五年 縫殿助酒造高の覚〕(控)

酒造高之覚

一、石高五百五拾石	延宝七年未ノ御改石高
一、石高式百七拾五石	同八年未ノ年半分造申候
一、石高百三拾七石五斗	同九年酉ノ年未ノ四ヶ一造申候
一、石高百三拾七石五斗	天和式年戌年右酉ノ同前二造申候
一、石高五百五拾石	同三年亥ノ年延宝七年未ノ石高之通造可申旨 被仰付候ニ付右未ノ石高造申候、其内御改之 義聴覚不申候、元禄九年子ノ年迄右石高之通 造申候
一、石高四拾六石式斗	元禄十年丑ノ年御改造り、御運上差上
一、石高拾七石三斗	同拾壹年寅ノ年造申候
一、石高三石四斗六升	同拾貳年卯ノ年造申候
一、石高八石六斗五升	同拾三年辰ノ年造申候
一、石高三石四斗六升	同拾四年巳ノ年造申候

右之通酒造来、此度御改ニ付吟味仕書付差上ケ申候、仍如件
元禄拾五年午

大宮町酒や 縫殿助
江戸へ罷出候付代 甚兵衛 印

〔史料三一五「秩父領・鉢形領酒御改日記」(元禄十一年)より〕

史料六

〔宝永六年二月 あまめ柿・梨子ほか御用割付につき覚〕（控）

あまめ・梨子つきほたい之わり			
一、七本 梨子	黒谷村	一、四本 梨子	栃谷村
一、四本 柿	同 村	一、貳本 柿	
一、貳本 梨子	定峰村	一、十貳本 梨子	山田村
一、壹本 柿	同 村	一、七本 柿	
一、廿三本 梨子	横瀬村	一、五本 梨子	下影森村
一、十三本 柿	同 村	一、三本 柿	同 村
一、四本 梨子	上影森村	一、貳本 梨子	浦山村
一、三本 柿	同 村	一、壹本 柿	同 村
一、十四本 梨子	寺尾村	一、十一本 柿	薛田村
一、八本 柿	同 村	一、六本 柿	同 村
一、五本 柿	田村郷	一、貳本 柿	別所村
一、三本 柿	同 村	一、壹本 柿	同 村
一、九本 柿	久那村	一、九本 柿	上田野村
一、六本 柿	同 村	一、六本 柿	同 村
一、四本 柿	日野村	一、七本 柿	白久村
一、貳本 柿	同 村	一、四本 柿	同 村

いのはな共

メ百廿本 梨子
メ七十本 あまめ

右之通急御用ニ候間、割付之通長貳尺ほと二うらヲとめふとみ毎年之通成を村々名所へ取集、来ル九日・十日兩日之内御屋敷へ遣候、吉田五郎兵衛様相渡可被申候

一、木のみ共去年割元分触置候通吟味いたし、九日・十日兩日之内御屋敷遣

し、山廻り衆へ相渡し可被申候

藤拾駄之わり 但し六束付

一、七束	浦山村	一、廿五束	上田野村
一、拾束	日野村	一、拾八束	白久村

右御屋敷御用ニ候間、わり付之通来ル十二日ニ御屋敷へ被遣、山廻り衆へ相渡し可被申候、以上

二月九日

一、小渋柿之ほ百五拾本、来ル十三日之朝遣し候様ニ名主勘右衛門・六左衛門方へ直ニ配府相渡し申候、以上

二月九日

横瀬村名主衆中

二月十日

一、八本 下影森村 一、七本 上影森村

右ハなしの木急御用之由ニ而兩村へ申遣候、十日四ツ時ニ五郎兵衛殿へ指趣申様ニ申遣候

史料七

〔宝永六年八月 栗木・竹・かや御用割付につき覚〕（控）

覚

一、栗拾本	内、五本	上田野村	貳本	日野村	三本	白久村
目通ハ九寸廻り、木有長ニ為持						
一、竹拾本	六寸廻り	横瀬村				
一、同四拾本	五寸廻り	山田村				

右ハ明二日之朝御屋敷へ遣、山廻り茂兵衛殿へ相渡し可被申候

丑八月朔日

吉田五郎兵衛殿御申付被成候

八月朔日

一、かや七駄 横瀬村 是ハかり干置可被申候、日限此方々可申趣候

史料八

〔宝永六年八月 木の実御用割付につき覚〕(控)

木ノ実覚

- 一、栗 壹石
- 一、松 六升
- 一、榎 貳升
- 一、梅 壹升
- 一、はぎ 壹石
- 一、榎 四升
- 一、梅 壹升

此割

- 一、くり巻斗 寺尾村 一、栗 八升 薛田村
- 一、はぎ巻斗 同 一、はぎ八升 同
- 一、松 七合巻夕 同 一、松 六合 同
- 一、榎 三合四夕 同 一、榎 三合 同
- 一、栗 四升 田村郷 一、くり貳升 別所村
- 一、はぎ四升 同 一、はぎ貳升 同
- 一、松 貳合八夕 同 一、松 壹合四夕 同
- 一、榎 壹合八夕 同 一、榎 七夕 同
- 一、くり七升 久那村 一、くり七升 上田野村
- 一、はぎ七升 同 一、はぎ七升 同
- 一、松 五合一夕 同 一、榎 壹升三合 同
- 一、榎 貳合六夕 同 一、梅 四合貳夕 同
- 一、くり三升 日野村 一、くり五升 白久村

- 一、はき三升 同 一、はき五升 同
- 一、榎 六合八夕 同 一、榎 壹升貳夕 同
- 一、梅 壹合七夕 同 一、梅 三合 同
- 一、くり五升 大野原村 一、くり五升 黒谷村
- 一、はぎ五升 同 一、はぎ五升 同
- 一、松 四合 同 一、松 三合六夕 同
- 一、榎 貳合 同 一、榎 二夕 同
- 一、くり六升 三沢村 一、くり三升 栃谷村
- 一、はぎ六升 同 一、はき三升 同
- 一、松 四合 同 一、松 貳合三夕 同
- 一、榎 貳合 同 一、榎 貳夕 同
- 一、くり貳升 定峰村 一、くり九升 山田村
- 一、はき貳升 同 一、はき九升 同
- 一、松 壹合四夕 同 一、松 六合三夕 同
- 一、榎 壹夕 同 一、榎 三合貳夕 同
- 一、くり壹斗九升 横瀬村 一、くり四升 下影森村
- 一、はぎ壹斗九升 同 一、はぎ四升 同
- 一、松 壹升八合 同 一、松 貳合七夕 同
- 一、榎 六合 同 一、榎 壹合四夕 同
- 一、くり壹升 上かけ森村 一、榎 壹升 浦山村
- 一、はぎ一升 同 一、梅 壹合一夕 同
- 一、松 貳合一夕 同 同
- 一、榎 壹合一夕 同 同

右割之通木ノ実取調置、来春中山廻り衆中今御触可有之候間、其節指趣相渡し可被申候

丑八月廿九日

右村々名主中

割元

(史料六一八「御公用控帳」(宝永六年)より)

史料九

〔寛政八年十月 酒造道具御改につき届書〕（控）

（表紙）

寛政八丙辰年十月
酒造道具御改二付御見分之上
御極印奉請書上控帳
酒造人 熊太郎
割役 高野七右衛門

酒造皆造被仰付候後御改二付、左之通り書付差上申候

乍恐差上申御届書之事

一、酒造株高式百四拾石

寛政七卯年酒造皆造二被仰付候二付相用候道具、左之通

一、六尺桶 拾本

内四本八桶木二而未取置不申候

一、五尺五寸桶 壹本

一、五尺桶 貳本

一、四尺桶 拾本

一、三尺桶 五本

一、添桶 四本

一、米漬桶 四本

一、壳場桶 五本

一、直し桶 壹本

一、壺代桶 八本

一、半切 六拾枚

一、こしき 壹本

一、ふきぬき 壹本

一、焼酎こしき 壹本

一、ふね 壹艘

△拾五筆

右之通酒造道具相違無御座候、休之道具者一向無御座候、以上

寛政八丙辰年十月

大宮郷酒造人 熊太郎

高野七右衛門殿

前書之趣私共儀も承知仕候二付、奥書印形仕取次差上申候、以上

与頭 八右衛門 印

高野七右衛門 印

田沼弥左衛門殿

青木清左衛門殿

永竹伴 七殿

大池権左衛門殿

右御届書、十月十七日浦山廻り大池権左衛門殿 江 差出申候

一、辰十一月十二日大宮郷酒造屋一通り御代官田沼弥左衛門様御見分被成候、
 尤此節被仰聞候ハ、是迄酒造方御役人為御改罷出候砌馳走ケ間敷義も致候哉、
 不埒至極ニ候間、以來馳走ケ間敷義決而仕間敷旨、勿論差掛り時分宜相成候
 ハ、御法之通り一汁一菜ニ而賄候様敷敷申可達旨被仰付候二付、割役高野七
 右衛門ノ酒屋当番升屋利兵衛并亀屋太郎右衛門兩人 江 直ニ御賄所五郎兵衛
 宅ニ而相達申候、尤外酒屋共 江 も細々申聞候様是又相達可申候

〔天保十年四月 穀仲間連名覚帳〕（控）

（表紙）

天保十己亥年
穀仲間連名覚帳写
四月廿二日

寛

一、他村分免札讓渡し之義者双方談ヲ遂、行事之者加印双方分可相願候、且又商相止候節者行事之者加印相願免札返上可致候

但し、大宮郷者行事四人宛年々隔番ニ相立、免札讓渡新規願并商相止免札返上之節右行事加印ニ而可相願候、入湯八ヶ村之内、横瀬村・山田村之内下五ヶ村之内、皆野村外六ヶ村之内、江行事式人宛年々隔番相立、免札讓渡し商相止免札返上之節右行事加印ニ而可相願候分、毎年八月十二日仲間会合之節行事之者取極、右名面御役所江書出し可申候

一、在方ニ而是迄穀商免札相渡置候分之外新規相願候義不相成、乍併商相休免札返上相成居候分有之相願候者相渡し候筈、尤大宮郷町並之分者新規相願候共勝手次第有之、是又行事之者方江懸合可相願候、町並之者分在方へ讓下之義不相成候

一、万諸商・万小商之免札所持之者仮令穀商不致候共仲間分相心得可申候但し、穀商相休候内者仲間会合無之とも勝手次第、尤相始候節者行事江相断可致出候

一、無札ニ而紛數商致候者有之者懸合を詰已來之取締いたし、若我意等申族有之者、其段行事之者分書面ヲ以可申出候

但し、手作物売捌候者勝手次第之儀ニ付、仲間分決而差構申間敷候

一、相場高下之節者行事之者分連中江為相知相場不同ニ不相成候様可取斗候、尤其時之相場書御役所江可差出候

但し、其村々ニ応し運送駄賃多少有之候得者右差別可有事、且又仕入方相濟下直ニ売捌勝手次第之事

右之外難相分儀も有之者割役所江可申出候

右之趣被仰渡候ニ付奉承知、一同仲間致加入候上者新古之無隔意、仲間会合之義者旧來定例之通り年々八月十二日出会仕候筈、尤一村惣代ニ而老人宛罷出候筈取究、御趣意之趣相守可申様儀定仕候、且仲間申談、左之通り

但、依時宜人別罷出度向者勝手次第之事

一、商売之儀ニ付難差置義致出来御訴ニも相成候節、諸入用之儀其節仲間示談之上取斗候筈

但し、本文之儀出来候節入湯八ヶ村之義別段示談之上取斗候筈

一、近来附送り荷物馬士共不埒之義數度有之候ニ付、向後者行事方ニ而馬士身元相糺儘成引請人相立判取帳相渡可申筈

但、此ヶ条追而仲間会合之節示談之上取究候筈

一、売主貫目附無之儀者買取申間敷候、并貫目札有之候而も入斗不足ニ候者買主分精々相懸合、若不行届候節者行事之者分飛脚を遣し売主江懸合可申筈

一、此已後者万端ニ付面々私之高下不仕仲間一同申談可致、且商売之儀ニ付六ヶ敷儀出来候ハ、惣仲間打寄可致相談候筈

右之趣仲間一同相洩申間敷候、依之毎年八月十二日致会合不相馳様申談、然上者年々行事方掟書一村老枚宛相渡し候様一同心得違無之様取極可申候、依之惣仲間儀定連印仕候処、如件

行事隔番覚

亥年 上影森 伴右衛門

孝之丞

子年 下影森 儀兵衛

午二月十七日夜

〔「万覚帳」(明治三年)より〕

丑年	久那村	伝兵衛
	別所村	仁兵衛
寅年	上田野村	吉右衛門
	金	吾
	弥	市

卯年	浦山村	五兵衛
	熊	二郎

辰年	白久村	茂吉
	田村村	勘二郎

史料十一

〔明治三年二月 東京送り染物の覚〕(控)

東京江 せめ物遣覚

一、織着つむき 式丈七尺四寸

(後筆) ぬひ紋沓ツ付、女はおり物、袖丈沓尺四寸、丈式尺五分上り

「一、右之通り三月十三日請取申候」

一、うき織 式丈七尺

色合ふとふねつみ、すそもよふ八寸位、五ツもんにて、くろちにて八分五、袖丈沓尺四寸上り、丈四尺上り

(後筆)

「一、三月十三日右之通り染物井藤を請取候」

一、二子絹 式丈七尺

色合手本通り、紋ハ沓ツもん、袖丈沓尺四寸上り、丈ケ四尺上り

(後筆)

「一、右之通り三月十三日請取申候」

右者井上倉吉殿 江 だのミ置申候、三月十五日頃迄ニ請取はつ二候

松本文書(秩父市立図書館所蔵、松本由太郎氏旧蔵) 史料十二

〔正徳元年七月 大宮町名主惣兵衛組店宗旨手形帳〕(案文)

(表紙)

正徳元年	大宮町
店宗旨手形下帳	
卯七月日	名主 惣兵衛

名主松本惣兵衛組下大屋藤四郎店

一、禪宗当所金仙寺 久兵衛 年五拾九

生国江戸銀町之者、拾九年以前店借シ置申候

店請人右銀丁吉郎兵衛

同宗同寺 女 房 年五拾六

江戸石町沓丁目次兵衛娘、卅四年以前置申候

男子沓人 同宗同寺 吉兵衛 年卅一

同宗同寺 女 房 年廿五

秩父領枋谷村平右衛門娘、五年以前置申候

右大屋藤四郎店

一、禪宗当所金仙寺 小左衛門 年四拾五

所生秩父領上影森村之者、廿年以前店借シ置申候

店請人右上影森村十三郎

同宗同寺 女 房 年卅六

当所孫右衛門娘、拾四年以前置申候

女子三人

さ く 年六ツ 同宗同寺
か つ 年四ツ 同宗同寺

下男老人

禪宗 長 四郎 年拾六

宗旨寺之義請狀二書入取置申候年季者

右大屋藤四郎店

一、浄土宗当所惣門寺

五郎兵衛 年五拾壹

生国勢州山田村之者、廿年以前店借シ置申候

店請人当所吉右衛門

同宗同寺 女 房 年四拾

秩父領横瀬村五左衛門娘、拾六年以前置申候

男子老人 六之助 年五ツ 同宗同寺

大屋勘右衛門店

一、禪宗当所金仙寺

三 四郎 年五拾八

所生秩父領上田野村之者、拾三年以前店借シ置申候

店請人右 上田野村彦太郎

同宗同寺 女 房 年五拾六

帶刀様御知行所秩父領寺尾村吉右衛門娘、拾壹年以前置申候

右大屋勘右衛門店

一、禪宗当所金仙寺

勘 三郎 年五拾壹

所生秩父領浦山村之者、拾五年以前店借シ置申候

店請人右浦山村五右衛門

同宗同寺 女 房 年卅七

当所伊左衛門娘、四年以前置申候

姑 た つ とし六拾三同宗同寺

男子老人 先腹 長 助 年拾 同宗同寺

弟 老人 伝 三郎 年四拾貳 同宗同寺

右大屋勘右衛門店

一、禪宗当所金仙寺

作 兵衛 年五拾壹

所生秩父領上田野村之者、四年以前店借シ置申候

店請人秩父領横瀬村吉兵衛

同宗同寺 女 房 年五拾

長谷川六兵衛様御代官所吉田町市右衛門娘、拾九年以前置申候

右大屋勘右衛門店

一、禪宗当所慈眼寺

喜 兵衛 年卅四

生国勢州多氣村之者、当年店借シ置申候

店請人当所平三郎

同宗同寺 女 房 年拾九

当所平三郎娘、三年以前置申候

本人七人

男女都合廿三人 内 男十三人 内 十一人 十五才六十迄

女拾人 内 七人 十五才六十迄

宗旨わけ 禪宗 廿人

浄土宗 三人

宗旨わけ 禪宗 廿人

浄土宗 三人

(江戸後期) 未十二月 香具商人仲間旋書 (控)

(表紙)

享保式十年卯十一月江戸香具連中之者共
 大岡越前守様御番所 江 被召出御尋御答
 十三香具商人仲間旋書

享保式十年卯十一月十六日江戸香具連中之者共大岡越前守様御番所 江
 被召出被遊御尋候趣

一、此度従長崎御奉行細井因幡守注進之趣、近年唐物抜荷致売買候者数多有
 之由、左様之族を見附次第其者之國所相札シ、御料者御代官、私領者其所之
 役所 江 預置、早速江戸表御月番所 江 可訴出候事

一、人參・虎胆・麝香・竜腦其外諸薬種・唐物之儀御印無之類、又者長崎商
 人之売上ケ不添諸薬種売買致候もの有之候者早速可訴出候

右之趣被仰渡候間急度相守可申候、其砌国々遠路之儀、又者十三香具之訳迄
 逐一被遊御尋候処越前屋庄兵衛・丸野安太夫・尾上兵左衛門と申もの罷出、
 速ニ言上仕候故十三香具ト究ル、其節御察当之趣

一、居合抜 曲鞠 唄廻し

右三組者愛敬言術売薬商人と申上ル

一、覗 軽業 見せ物

右三組御香具所と看板出シ薬齒磨ヲ売故

一、懐中掛香具売

是者江戸御屋敷様方 江 參ル香具匂ひ貸売之事

一、諸國妙薬取次売

是者目之前と申ニ而老分万金丹・越中富山反魂丹・小田原外郎・齒磨
 楊枝ヲ売商人也

一、大勢引連江戸・京・大坂・田舎在々迄売通売薬商人
 是者諸國売薬弘メ国商人と申上ル

一、辻療治膏薬売
 是者外科口中療治・按摩・道引をする故辻医師と申上ル

右十組者売薬香具ト申事尤也、其外小間物・火口売・砂糖漬売之御察当御座
 候処、越前屋庄兵衛・丸野安太夫・尾上兵左衛門三人之もの御答申上候趣

一、蜜柑・梨子砂糖漬売商人

是者砂糖菓子売を香具仲間とハ如何と御察当御座候処、丸野安太夫ト
 申もの御答申上候、都而蜜柑ハ風を發散ス、梨子ハ痰咳之薬種故売薬
 香具仲間と奉申上候

一、小間物売

是者櫛・笄・きせる・煙草入之類を商人を香具仲間とハ如何と御察当
 御座候所、尾上兵左衛門と申もの御答申上候、右之商人紅・白粉ヲ売
 故、紅者口中之熱ヲ去り、白粉者顔之面皸之薬故、是売薬香具仲間と
 申上ル

一、江戸ニ而升屋、京ニ而吉久、大坂ニ而明珠と申火打・火口を売商人

是者鉄物火打・火口を売商人ヲ香具仲間売薬と者如何と御察当御座候
 処、越前屋庄兵衛と申もの御答奉申上候、是者先年越前国今出候蓬艾
 火口ヲ売旅人道中ニ而脚氣・底豆之痛之砌右之蓬艾火口を以早速灸を
 居る時者痛苦を逃る、故是売薬香具仲間と申上ル、其砌香具十三仲間
 と定

右之趣御記録ニ留

此度御公儀様御医学館多紀広寿院様ニ而御開板被遊候広惠濟兼方御書物之儀
 ハ、諸人御救之御書物ニ御座候付、御町奉行池田筑後守様御番所 江 読弘之
 儀四月廿四日御願申上候処、度々御吟味之上六月二日被召出、濟兼方読弘之
 儀者広寿院方 江 対談之上勝手次第可致旨被仰渡、依之売薬香具仲間之もの
 共御書為読弘度奉存候二付、右御書物之儀広寿院様 江 御願申上候得者、願
 之通被仰付難有御請奉申上候、依之私共商人ニ而諸國仲間取究申度候

月日

山本惣吉

岩附屋 市右衛門

江戸 香具連中印

一、私共渡世之儀者御当地并諸国往来栄場ニ而愛敬人集メ仕候而、夫々香具
 或者壳栗壳弘メ候儀ニ付読弘メ方左ニ申上候
 一、御当地壳栗見世ニ而人集メ之ため右御書物為読聞申候儀ニ御座候
 一、在市町見世前ヲかり請夫々家伝之薬看板相立候、薬荷物差置往来人集メ
 之ため為読聞候儀ニ御座候

香具渡商人定

一、諸国在々家伝壳栗渡世之ものハ是迄之通り夫々之荷物・看板等相立売
 るき申候ニ付、町場其外家前ヲかり受、荷物おろし置候節為読聞候儀ニ御座
 候

但、往来読歩行候儀ニ者無御座候

去ル寛保四子三月江戸御役所々被為仰付、自国他国共ニ広家業相勤可申由難
 有奉承知候之所、近年不作法相成世中之呼唱悪敷、依之香具仲間相互相談ヲ
 以無常講会合を始め去秋閏七月中三条町ニ而当国惣香具商人寄合、其上面々
 相互相慎可申様敷申合之旨左之通

定

一、公儀御法度之旨可相守候事
 一、新規無縁之香具渡商人敷敷相尋、親分子分契約可為致候事
 一、目下之者工を以不足無心ケ間敷儀堅相慎可申事
 一、宿等ニ而大酒・色欲致ヘからず事
 一、宿払等鹿末無之様不埒之輩後日相知候節職分相除可申事
 一、遠国等江家業相勤候節者妻子之者ニ致附届可罷出事
 一、兄弟之内たり共女儀を連無家業無宿ニ而徘徊不可致見苦候事
 一、行先々にて長病又者病死等有之候節ハ、はしめハ近所之友達為知及
 難洪候ハ、遠方之友達迄も為相知、其所御役方又者宿等江少も苦
 勞相懸不申様取斗可申候事

寛保四子年五月廿三日

惣 吉

市右衛門

御番所様

定

一、御公儀様御法度之儀者不及申上急度相守可申候事
 一、広惠濟兼方御書物并札致持參候共權威ケ間敷事堅致間敷候事
 一、御書物往来読歩行致間敷候事
 一、唐物御印無之物壳買堅致間敷候事
 一、壳栗致渡世候節押壳押買堅致間敷候事、所々高町・栄場・市場ニ而喧嘩
 口論可相慎事

一、仲間之者共都而睦間しく致、病氣其外難洪之儀有之節者相互ニ助合可申
 候、若等閑ニ致し候族仲間相はふき可申候事
 右之条々堅可相慎候、以上

宝曆十辰曆四月十日

一、去ル宝曆七庚辰四月十日五泉町ニ而会合致候、又候三条町ニおゐて会合
 仕候、其後所々ニ而会合致し候、今度五泉町おいて相改取立候而無常講会合
 仕候、尤来年々者四月十日ニ相定可申候、尤右人数之内万一病死仕候ハ、桶

代として鏡壹貫文宛相渡可申相定之事

一、先年定書之通堅相守違乱申間敷候、猶又相定之通無解怠相勤候条可為專要候事

明和九辰年三月七日

相尋候口上書

市五郎事 久 六

一、香具十三香具と申候者享保年中大岡越前守様御役中御尋之儀有之、其節逸々御答申上候所、別紙書物一卷ニ仕置候通ニ御座候
一、右書物之義江戸山本惣吉と申者今五ヶ所^江相送り申候

仙台岩沼ノ 徳 平

ヒタチカ 寺恩寺ノ 岩 五郎

上州之内か キサヤノ 政 五郎

甲州 アシノヤ 吉 蔵

越後五泉ノ 佐兵衛ノ相統 久 六

右五ヶ所ニ而所持仕居申候

一、宝曆年中香具取極書之儀明和年中先久六猶又相改此辺香具定書と申、別紙之通年々四月十日会合仕候儀ニ御座候

右有増申上候、尤香具一統之義者右書物ニ而逸々相分り可申奉存候、勿論不相分義者猶口上を以可申上奉存候

未十二月

五泉町 久 六

矢尾家文書 (秩父市矢尾百貨店所蔵)

史料十四

(寛保四年正月 質屋仲間議定書) (控)

覚

一、前々之通其品不相応之質物一切取間敷候、別而道具類念ヲ入吟味仕可申事

一、仲間之外隠質取候者怪敷風聞之由他所ノ頭候者勿論、仲間ニ而も存付候義者早速申出悪事出来不申様ニ可仕候事

一、当所質物五ヶ月限子分拾五両壹分ノ割合錢質百文ニ付式錢宛

一、規質之儀六月今十月迄者二月六日限、霜月今極月迄者三月朔日限御座候事

一、此已後者私之高下不仕仲間相談之上ニて相極可申候、尚又質物ニ付六ヶ敷義出来候ハ、惣仲間打寄相談可申事

右者前々之通ニ御座候得共弥以此度相談相極申候、自今違背仕間敷候、毎年正月十三日ニ仲間寄合書付改可申候、仍如件

寛保四甲子年正月

惣仲間

史料十五

(天明七年九月 升屋利兵衛酒造高につき届書) (控)

乍恐以書付申上候

先達而從御公儀様被仰出候当年酒造御触書之趣奉畏候、私酒株之義ハ当三拾九年以前祖父惣左衛門殿ノ借受候酒株高七拾九石壹斗之内五拾九石四斗式升元禄十年丑ノ年之通造来候処、右三分一拾九石八斗六合此度被仰出候通酒造仕候、右御届申上候通聊相違無御座候、万一右書面之外酒造仕候段脇ノ相頭候ハ、何様之御科被仰付候共聊可申上様無御座候、依之書付差上申候、此段御代官様^江被仰上可被下候、以上

天明七丁未九月

秩父領大宮郷 升屋 利 兵衛

松本惣太郎殿

前書利兵衛御届申上候趣私共儀も細々吟味仕候処聊無相違御座候、万一右書面之外酒造仕候段脇今相知候ハ、当人ハ不及申私共迄何様之御咎ニも可被仰付候、依之奥印仕取次差上申候、以上

組頭 惣次右衛門

松本惣太郎

野沢与助殿

宝田嘉平次殿

新井家文書(吉田町新井孝一氏所蔵、埼玉県立文書館寄託)

史料十六

(正保二年十月 太田部村伊勢初穂料取立帳)

伊せの御太ねん之はとう也

五十文 やなば

百文

百文

廿四文

廿四文

廿四文

廿四文

廿四文

廿四文

廿四文

廿十一文

合四百五十文

百文

百文

式十四文

式十四文

式十四文

廿四文

式十四文

式十四文

合三百五十文

五十文

百文

百文

式十四文

式十四文

式十四文

式十四文

廿四文

廿四文

式十四文

合四百式十四文

これハいせへ納御はとう

太田部

百文

五十文

百文

百文

百文

百文

百文

式十四文

半左衛門

五郎左衛門

九右衛門

三郎左衛門

七左衛門

惣右衛門

常正院

大せん

左馬十

右馬助

仁右衛門

彦兵衛

正三郎

与惣左衛門

宮本房

七右衛門

大せん寺

せん権院

うたの助

市右衛門

弥右衛門

助左衛門

長九郎

吉右衛門

式十四文

甚右衛門

式十四文

新 兵衛

式十四文

せい三郎

式十四文

市郎右衛門

式十四文

うたの十

式十四文

新右衛門

廿四文

惣左衛門

式十四文

与次右衛門

式十四文

又右衛門

式十四文

三 太郎

合九百式十四文

太田部

五十文

常 心 房

百文

蔵 之 丞

式十四文

き右衛門

式十四文

八郎左衛門

式十四文

七右衛門

惣合式貫三百七十四文

右これハかう作之御きねん二天（二）しゃ（三）大神様へ大かくらの（四）はとうなり

正保式年丙十月十八日二

てぬきする也